

第4回日仏民間航空機産業協力に関する ワークショップに参加して

2016年（平成28年）11月9日、経済産業省（METI）とフランス航空局（DGAC）の主催による表記ワークショップが、パリのDGAC本部にて開催された。その概要を報告する。

1. はじめに

日仏民間航空機産業協力の覚書が交わされた2013年（平成25年）に東京で開催されて以来、毎年パリと東京で交互に開催され、今回で4回目となった。今回はフランスから9つの企業と団体の参加があり、1日だが充実したAgendaが用意されていた。午前は非公開のクローズドセッション、午後は参加者が聴講できるオープンセッションとして行われた。オープンセッションでは政府側からの発表とビジネスワークショップと称する企業や団体のプレゼンテーションが行われ、日本、フランスからそれぞれ4件ずつの発表があった。ここでは午後のオープンセッションについて報告する。

2. オープンセッションの概要

(1) DGAC、METIからのプレゼンテーション

ビジネスワークショップに先立ち、DGACとMETIから発表があった。DGACからはCarine Donzel氏がRPAS(Remote Piloted Aircraft System)に対するフランスの取り組み、METIからは航空機武器宇宙産業課 畑田課長が日本の航空機産業のビジョンとポリシーに関する紹介を行い、現在の日本の国際共同開発の状況や特徴的な取り組み事例、そしてクラスターの紹介にフランス側から興味を示されていた。

(2) ビジネスワークショップ概要

15:30から18:30近くまで開催され、在仏日本企業や団体からの参加者もあり、日仏双方



ワークショップに参加した、主に日本側メンバー

表1 プレゼンテーションを行った企業・団体

フランス側	日本側
Zodiac Aerospace (機体内装品) http://www.zodiac aerospace.com/en	AeroEdge (タービンブレード製造) http://aeroedge.co.jp/
Aquarese (ウォータージェット加工) http://www.aquarese.fr/?lang=en	KYB (機体装備品) https://www.kyb.co.jp/
DAHER (機体部品・装備品) http://www.daher.com/en/	由紀精密 (精密部品製造) http://www.yukiseimitsu.co.jp/
BeAM (Additive Manufacturing) http://www.beam-machines.fr/wlg/en	NEDO (航空分野における取組み) http://www.nedo.go.jp/

から50名ほどの参加者があった。フランス側から4社、日本側から4社・団体の順で質疑応答を含めて20分ずつの発表があり（表1）、日仏間で企業や団体の協力関係、交流を深めるべく、各社の事業内容、製品、特徴的な取り組みについて等のプレゼンテーションが行われた。

同月の11月21-22日にGIFAS Japan missionの一員として来日するDAHER社を初めとして、フランス企業から日本へ積極的にアプローチする姿勢が示され、また、日本企業からも同月GIFAS が来日する際にB to Bミーティングに参加して積極的にフランスとコンタクトしたい旨を示す企業があり、セッション間のロビーにおいても熱心に企業間の情報交換が行われていた。

3. 企業訪問

ワークショップに先立ち、DGACの取り計らいでToulouseにてThales社およびAirbus社を訪問する機会を設けて頂いたので簡単に報告する。

(1) Thales Avionics (11月7日)

ここでは機体装備品のAvionicsだけでなく、航空管制やWeather System、Ground Controlのソフトウェアの開発等も行っている。航空管制やAvionicsに関して航空当局や

機体会社、ユーザーと長い間に積み上げた考え方や方法、アプローチが財産であり、コンセプトの検討に10年以上かけるという話も紹介された。また、ソフトウェアの検証用コンソール（リグ、デモ設備）を合わせて見学した。

(2) Airbus (11月8日)

会社紹介や各モデルの状況説明、調達ポリシーなどの紹介の他に、2050年に向けたコンセプトの紹介もあった。Single Isle航空機の経済性を向上させることや、Solar Powerや燃料電池をはじめとした電力の利用を追及すること、キャビンと外部の通信システム（Cabin Connectivity）の発展・確立などがあり、推進システム（エンジン）にも大きな変化が出てくるビジョンの紹介があった。また、2020年の日本でのオリンピック開催時には日本へ多くの訪問者があるので、航空機の他にもそれを受け入れる空港設備等のインフラのサポートにも力を入れていくとのことだった。

また、A350XWBの最終組立工場を見学し、合わせてエアバス各機種を集めたキャビンモックアップホールを見学させて頂いた。A350XWBは現在まだ月4機程度の生産レートでmoving lineではなく、フル生産レートに至るのはまだ先の段階とのことで、また、非常にクリーンな工場であった。モックアップセ



エアバス社訪問メンバー（エアバス社提供）

ンターにはA320、A330/340、A350XWB、A380をはじめ、コーポレートジェットの実物大モックアップが置かれていた。モックアップと言っても実機の胴体部分そのものを設置したもので、様々なクラスのシートや調度品をはじめとするあらゆるオプションが配置され、現物を確認しながら顧客と細かい仕様の調整を行うという。ベッドやソファ、シャワーまでも備えたコーポレートジェットの実機仕様も見ることができた。

4. 所感

今回4回目のワークショップに初めて参加

したが、フランス企業と日本企業の交流は地道にだが確実に進んでいるという印象を受けた一方、日本企業の光る技術を更にアピールしていくために、プレゼンテーションを通じた訴求力の大切さも強く感じた。また、フランスの日本への強いアプローチの一環として、同月後半の11月21-22日にフランス航空宇宙工業会（GIFAS）の企業団が訪日したが、今回のワークショップの機会を利用してGIFASと事前打合せ等も行うことができ、有意義な訪問にすることができたと考えている。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際部 部長 川平 浩司〕